

羽曳が丘 憲法九条の会 ニュース

第20号
2016年6月発行
連絡先 林正敏
(丘)2-4-3
Tel 956-0596
habikigaoka.9jou.info



結成10周年 第十二回 つどいを開催

4月3日(日)の午後、羽曳が丘のももプラザにおいて、羽曳が丘憲法9条の会の、「つどい」を開催しました。沖縄の民族舞踊の鑑賞と、フリージャーナリストの西谷さんの講演に、約百人の方が参加してくださいました。

沖縄の民族舞踊

地域内にお住まいの方の伝手を頼り、尼崎から渡久山舞踊研究所の6名の方においでいただき、舞っていました。渡久山というのは、宮古島のすぐ近くの、島の名前です。焼酎、泡盛などがお酒の世界では有名です。祝儀舞踊の「祝い節」など5曲の舞を披露していただきました。



渡久山舞踊研究所のみなさん

なぜテロが起きる？ イスラム国とは？ 日本はどうすれば？

西谷氏講演

中東を中心に、長年の取材の積み重ねに裏打ちされた、テロを中心にした世界の情勢、日本の現状についてお話いただきました。西谷さんのお話を要約で紹介します。

中東諸国・出生の経緯

シリアは北はトルコ、南は

イラク、ヨルダン、イスラエル、レバノンに囲まれている。このシリアを米仏露英が空爆をした。空爆には莫大な費用がかかる。1回1億円。合計で1万回を超えてい



このあたりの歴史は非常に古く、メソポタミア文明が起ったところである。ところが、シリアとかイラクといった「国」は新しいものだ。ちょうど百年前までは、この地域はオスマントルコという強大な国だった。オスマントルコ

西谷 文和氏 (フリージャーナリスト)

1960年生まれ。吹田市役所勤務を経て、現在フリージャーナリストでイラクの子どもを救う会代表。2006年度「平和協同ジャーナリスト大賞」を受賞。関西圏を中心に、マスコミや講演活動を通じて、戦争の悲惨さを伝え続けている。著書『戦火の子どもたちに学んだこと アフガン、イラクから福島までの取材ノート』かもがわ出版 13歳からのあなたへ 2012(共著)他

西谷さんの活動報告や活動支援募金についてはホームページ <http://www.nowiraq.com/> で、ご覧ください。

ツイッターアカウント @saveiraq

がドイツと組んで第一次世界大戦を戦い、敗れた。勝者は英仏露。オスマントルコは英仏に切り刻まれることになった。イラク、ヨルダン、パレスチナをイギリスが取り、フランスはシリア、レバノンを取った。このとき、定規で引いたような直線の国境線が引かれた。イギリスはずる賢く、パレスチナ(イスラエルの地)の地に多く住むアラブ人と、世界に散ら

ばっていたユダヤ人の双方にパレスチナでの建国を認めた。日本の四国ほどの土地を、今も争い続けている中東戦争は、ここから始まっている。1967年、イスラエルがシリアのゴラン高原を奪取し、第三次中東戦争が勃発した。その3年後、パアサドがクーデターを起こし、今のバシシャル・アサドが世襲で独裁を引き継いだ。

なぜ少数派政権が生まれる

アサドはイスラム教のアラウィー派、人口は1割程度。8割ほどの国民がスンニ派。(アラウィー派は、シリア派の一部)

5年前、アラブの春がこの国にも飛び火し、国内各地でデモが起こった。そのデモに対し、アサド軍は殺戮を行った。この内戦状態は今日も継

続している。1日に百人以上死ぬ、悲惨な国となった。

注目すべきは、アサドは少数派だということ。フランスが植民地から撤退する際に、アラウィーだけに武器を渡し軍を作らせた。これがクーデターの温床となり、案の定パアサドがクーデターを起こした。こうして立った政権は、国内基盤が弱く、大国に頼らざるを得なくなる。大国は、わざと少数派に政権をとらせて、その国をコントロール下に置こうとする。

「中東やアフリカで戦争が多いのはなぜですか？」という問いに対して、よくある答えが、「宗教や宗派、民族が違う人が住んでいて、仲が悪いから戦争してる」であるが、これは間違いだ。「大国がその国を支配するときに、わざと宗教、民族の違いを利用して分断して統治してた」というのを忘れると、間違いに陥る。

● シヤール地区。人影は少ない
● 自由シリア軍に同行し、最前線に
● 自由シリア軍兵士が、アサド軍に路地から銃撃
● ミサイルで爆撃されたアンサーリ地区の瓦礫の山
「このミサイルは宇宙の人工衛星がコントロールするんです。なぜこのビルが狙われたかというと、このビルに住んでいた自由シリア軍の司令官の携帯電話の番号が、相手方にバレたわけです。携帯で位置情報がかめるから、ピンポイントで当ててくるんです。今、戦争はものすごいハイテクになってるんです。」



イスラム国の正体

シリアとイラクが内戦でぐちゃぐちゃになった中で出てきたイスラム国とは？

3年前のアレッポのビデオレポート上映 (ビデオ上映 「」内は上映中の西谷さんの話)

- トルコからシリアへの移動
- 国境を越えると、建物は破壊され廃墟となっていた。
- アレッポの攻撃にさらされた団地
- アレッポの中心街。人は多い

(ビデオ)
● イスラム国の誕生は、2003年のフセイン政権の崩壊から始まる

● アメリカは石油省以外の政府機関を爆撃し、官僚を一掃
● 40万人のイラク軍兵士が、武器を持ったまま失業

● フアルージャなどで虐殺を行ったアメリカに対する反感
● 武器を持ち帰った元兵士がアルカイダなどに合流するなどした

● アメリカはあえてイラクを無政府状態にした。なぜ？
● 通常、利益の50%以上が産油国に支払われるが、無政府状態のイラクでは、国際石油資本は25%で強引な契約を行った

● シーア派のマリキ政権はモスルやフアルージャのスニ派を理由もなく虐殺
● 住民たちはイラク軍に対し、自衛の戦いを始めた

● そんな中台頭してきたのがイスラム国
● イスラム国は組織として擬似国家のような形態を整えた

● モスルの銀行を強奪し、アジルの石油を押しさへ豊富な資金を得た
● アメリカは、石油拠点のアルビルに攻撃が及ぶと態度を一変し、イスラム国に空爆を開始

● 空爆は反米感情しかもたらさない。それでも続けるのはなぜ？
● トマホークミサイルは一発数千万円。ミグ29は一機60億円

● 泥沼化で大量の武器が売れ、潤っている人がいる
● イスラム国はアメリカに反抗するために生まれた

● しかし、その残虐性ゆえ、世界から空爆中止の声が上がらない (ビデオ、ここまで)
(裏面へ続く)

戦争は嘘で始まり 報道が後押しをする

イスラム国がめちゃめちゃ恐ろしい、そして、何やわからんけど残酷な奴らを「何とかして」となる。今、米仏露がものすごい空爆しているが、世界中に反対の声が起こつてない。

2003年のブッシュ大統領のイラク戦争は、石油目的という下心が透けてわかりやすかったし、こじつけた理由も嘘がばれて、世界中で反対運動が起きた。賢い彼らは反省して、わかりにくい戦争を長々とやる戦略に変更した。

なんかおかしい報道

一年少し前の後藤さんと湯川さんの事件。テレビ報道はずるかった。イスラム国があるのが前提になって、奴らはひどい、奴らは残酷だ、やつつける、と情緒的な報道に終始。真に知らせるべきはイスラム国とはどういう成立ちか、なぜ残酷な仕打ちを続けるのかを報道しなければならなかった。しかし、それをすると、アメリカが嘘をついて始めたイラク戦争とイスラム国との関係がバレる。アメリカの戦争を「正義の戦争」とする安倍内閣の方針にも触れる。だから、恐怖をおおる報道ばかりに。

世論を変えたナイラの涙

巨額の利益が得られるものは、嘘から始まるものが多

い。湾岸戦争でも、開戦前に嘘がマスコミを通じて流され、世論の動向を支配した。

(ビデオ)

●テレビ録画

●湾岸戦争のとき、米議会で行われたナイラというクウェートの少女の「イラク人が如何に残酷非道か」という涙ながらの証言が、米国の世論を大きく動かして、イラク戦争を後押しした。「後日、この少女は米国生まれで、クウェートの土を踏んだことがないことが明らかとなった。これを裏で操ったのが広告会社だ」という、伊勢崎賢二さんの話

(ビデオ、ここまで)

湾岸戦争直前に、当時15歳の高校生、あの少女のでっち上げの証言を、テレビで全米に流す。クウェートに攻めつけた上に、ここまでは本当、クウェートの病院を次々と襲って、病院の保育器に眠る赤ちゃんを取り出して、312人殺しちゃったという女の子の泣きながらの証言。それまで少なくともあった米国内の反戦の声が、かき消された。

戦争終結後、一年半ほどで少女の嘘がバレるが、高額な武器もみんな売れた後。

なぜだまされるのか?

記憶に新しい311直後の報道を振り返ると、テレビに出ているえらそうな肩書きの付いた人の言動に、すっかりだまされていることに気づく。

東大、東工大、京大の先生が何を言っていたか。「メルトダウンはしていない」「水素爆発しない」「少し放射能を浴びたほうがいい」「プルトニウムは飲んでも安全」。テレビの識者といわれる人の情報を鵜呑みにするのは、特に戦争に関連するものは危ない。

清原選手の薬物疑惑、ベッキーの不倫騒動、SMAPの解散騒ぎなど、どうでもいいニュースを繰り返して長々とやって、国民の命に直結する大事なニュースを隠蔽する。高浜原発の再稼働も隠された。

都合がよすぎないか?

シャルリー・エブド事件

去年の1月7日にシャルリー・エブド事件が起こった。イスラム教を風刺する漫画を描いている雑誌社で犯人3人が17人が殺された。

フランス憲法の35条の2。フランスでは政府が国会に通知するだけで海外に軍を派兵できる。が、35条の3。上記の派遣が4ヶ月を超える場合、政府はこの期間を延長するかどうか、国会からの承認決議を取らなければならない。派兵は簡単にできるけれども、4ヶ月後に立ち止まって考えて見ましようという憲法。

その4ヶ月目が去年の1月11日。フランスのオランダ大統領は、軍を撤退するかどうかの瀬戸際にあった。去年1月、オランダの支持率は史上最低の12〜15%。なぜか? 戦争したから。フランスもお金が無い。空爆のために年金削らしがなざりになった。パリの市民は、「戦争やめて年金

に金回せ」とデモをしていた。



A

オランダ、ピンチ。そんな1月7日にシャルリー・エブド事件が起きた。どうなったか? 犯人はすぐに殺されて事件そのものは解決。オランダが国民に呼びかける。「フランスはテロに屈しない。みんなでデモをしよう」。11日には全仏で、370万人の人が「私はシャルリー」とデモをした。

このデモの先頭に、40カ国の首脳が立った。日本も。40カ国の首脳はフランスと連帯して、「テロと戦うぞ」と言ったと報道されているが、実は、こ



B

のデモを違う角度で見れば、写真Bのようだった。しかし写真Aのように接近して撮れば、あたかも370万人の群衆の先頭に立っているかのように見える。

新聞、テレビでは、この写真Aだけが報道され、写真Bは決して報道されない。その2日後、フランス議会ではイスラム国の空爆延長が、賛成488、反対1で可決された。

不思議は他にも

この事件の直後の、アハマドという警官が射殺されたときの映像が残されている。映像では、撃たれた弾が当たったかどうかは微妙。彼は英雄ともてはやされた。

去年の8月にパリに取材に行ったところ、この事件の現場は、献花もなくひっそりとしていた。一方、この事件の2日後に、別の犯人がユダヤ系の食品センターに忍び込んで、客を4人殺害した。この現場では、被害者の写真が飾られ、花もローソクもある。この差はなに? 非常に不思議だった。シャルリー・エブドの本社ビルにインターネットに導かれて訪れた。番地情報が間違っており、すぐ近くの階段(パリでは階段の番号で住所を表す)へ案内された。現地

の報道で、犯人も、最初は間違った階段に侵入していたとわかる。下見もせずにネット情報を頼りに襲ったのか?

同時多発テロにも不思議が

この事件の犯人は、ベルギー人だった。首都近郊のモランベルグ。この辺り、住人は、ほとんどがアラブ系の地域だ。

ここでパブを経営していた。え? ガチガチのイスラム原理主義者が、酒を売っていた? ベルギーは、若者の失業率が50%、さらにベルギー生まれのアラブ系の人たちはもっと低く、貧困で閉塞感がある。刑務所はいつも満杯。

シャルリー事件も、パリの同時多発テロも、ベルギーのテロも、犯人たちは刑務所で知り合っている。つまり、フランス警察もベルギー警察も、犯人の指紋、顔写真、背後関係携帯電話の番号、メールアドレス、みんな押さえていた。なのに事件は起こった。なぜ?

フランスのテロの犯人、28歳のアバウドが、郊外のアパートに潜んでいるとき、フランス警察100人に囲まれて、五千発の銃弾を浴びて殺された。28歳の若者ひとり、一連のテロを企画実行できるのか? なぜ、生け捕って背後や組織を調べないのか?

テロとの戦いそのものを疑っていかなければならないと思う。

どうして平和を取戻すか

去年の1月7日にシャルリー・エブド事件。世界は「テロと戦え!」と戦争モードに入る。去年の1月20日に後藤さんの事件。イスラム国なんか許せん。11月の同時多発が起き、猛烈に空爆が始まり、ベルギーでテロが起きた。悪循環に入っている。暴力を暴力で押さえつけるなんてできない。日本は日本のやり方、外交で平和を取り戻す、人道支援で平和を勝ち取る。曲がりなりにも、今までの歴代の内閣はやってきた。安倍内閣に

西谷さん講演記録、全文書き起こしバージョンの冊子を用意しました。

A4 16ページ
印刷代実費: 200円

ご希望の方は事務局までお申し出ください。

なって、強引にアメリカ型のやり方へ変わった。

日本は今まで、アラブともイスラエルとも、八方美人と言われながらも、うまく付き合ってきた。日本の石油の8割はアラブから来ている。

安倍首相はイスラエルの旗の前で、「テロに屈しない」などと言ったが、テレビが生放送して世界中に拡散される。そうすると「なんや日本はイスラエルの味方か」となる。これは国益にも反する。

忘れない、諦めない、

だまされない

去年の秋に戦争法が強行採決された。去年の9月、国会を取り囲んだ若者たち、子育てママの会の人たち。自民党の幹部は強行採決した翌日に「大丈夫や、来年の夏までに国民は諦めてくれるわ」と言っていた。そしてテレビを使って違う方に国民の関心を導く。だから、私たちは「忘れない」「諦めない」「だまされない」で行かないといけない、この夏まで。今が非常に大事なとき。参議院の32の一人区で、かなりのところで共闘がすすんでいる。「戦争法に賛成した人はあかんぞ」と、いうものが北海道から沖縄まで、すごい大きな波になっている。

(了)